

市松キャンパス 1学年

人生講話2012 声優「西村 ちなみ」さん

今年の人生講話は声優の「西村ちなみ」さんをお迎えしました。西村さんは現在、NHK Eテレで放送中のおじゃる丸で主人公の坂の上おじゃる丸の役や、「スマイルプリキュア」のキュアビューティ、その他ポケモンのワニノコをはじめ様々なキャラクターを演じていらっしゃいます。さらに読み聞かせやナレーションでもご活躍中です。2012年初秋、今年の人生講話の講師として市松にお迎えしました。



中学、高校時代として声優になるまで…

「私が声優になりたいと思ったのは中学2年生の頃でした。小学生の頃からラジオを聴くことが大好きで、マイクの前で話すということにあこがれを持っていました。その当時大好きなアニメがあり、それが声優に興味をもったきっかけだと思います。中学3年生の卒業文集でも10年後の自分は声優になっていると書きました。

高校に入学しても、声優になりたいという夢は変わりませんでした。国語の授業の朗読などでは、自分から積極的に手を上げてみんなの前で気持ちをこめて読むなどしていました。

高校を卒業し、まず声優の専門学校に進学しました。声優の仕事は声に特徴がなければできないと思っている方も多いと思いますが、それは関係ありません。根底にあるのはもちろん「お芝居」です。キャラクターに「命」を吹き込むこと、それが声優だと思います。専門学校に入ってからわかったのですが、声優の事務所には養成所というのがあって、その事務所の所属になるのが声優への近道と知りました。それなら養成所に直接行ったほうが夢に近づけると思い、専門学校は1年でやめてある養成所に入りました。そこで教わったことはとても充実していました。そして、その養成所の所属になるオーディションで、私は残ることができませんでした。今までずっと順調に夢に近づいてきたことに対して、初めてNOといわれ呆然としました。声優になりたいと強く思えば叶うと思っていたのですから。目の前が真っ白になりました。あてもなく家を出て、ただ呆然と歩き回りました。

でもその時「ああ、私は本当に声優になりたいんだ・・・これしかないんだ、という気持ちを再確認しました。」

声優の仕事と今について・・・

「その後、今もお世話になっているエイティワンプロデュースの養成所に入りなおして、がむしゃらにレッスンに励みました。もしあの時、挫折を味わっていなかったら、エイティワンでの充実した養成所時代がなかったら、仕事に対する向き合い方が変わったものになっていたと思います。自分の気持ちを再確認できたきっかけにもなりました。今の事務所にはもちろん感謝していますが、あの時私に「NO」と言ってくれた事務所にも感謝しています。養成所時代の92年に初めて人形劇の声で役を頂き、94年春に養成所卒業間際に受けたオーディションで主役をいただき本格デビューとなりました。96年ゲゲゲの鬼太郎の猫娘、97年にポケットモンスター、98年おじやる丸が始まり、歌や、やりたかったラジオの仕事など、夢見ていた仕事できてとても充実しています。結婚して、子供を産んで今もお仕事を続けさせてもらっています。



声優の仕事は、アニメの吹き替え、海外映画等の吹き替え、番組などのナレーション、CM、教材などのナレーションなど本当にたくさんあります。キャラクターで歌も歌います。大変なこともあるけど充実しています。声優の役には指名もありますが、オーディションで決める事もあります。ベテランも新人もガチンコ勝負です。そのキャラクターを見て、どんな性格をしているか、どんな風にしゃべるのかイメージを膨らませて命を吹き込みます。長く続けている番組などでは、最初の頃と放送回数が進んで、最後の頃とは声や芝居の感じが違う場合などもよくあります。キャラクターと一緒に私も成長させてもらっています。」

アンケートについての質問について答えいただきました。

①やっていて楽しいこと、辛いことはなんですか？

「好きな仕事をできることはありがたく楽しいです。あとは子供たちがキラキラした目で番組などを見てくれる時は本当にうれしいです。また、色々な人との出会い、ご縁は私の財産であり宝物です。私の仕事は言葉を伝える仕事です。素敵な言葉を言わせていただいて、それにより自分が励まされることもよくあります。大切な言葉を役を通して伝えられる。これは声優ならではの

「仕事感」だと思います。納得のいく仕事ができたり、監督にOKをだしてもらったり、周りからよかったよと言ってもらえることもやっぱりうれしいです。

反対に思ったように芝居ができない時は落ち込みます。声優の仕事は短距離走と一緒にテンポよく進んでいく仕事なので、瞬発力が必要です。失敗しても立ち止まることはできない。1本のアニメで3時間～4時間で録らなければなりません。ダメ出しされたことにはすぐに対応する力が必要です。」

②声を出す仕事でここ掛けている健康法は？

「よくきかれますが特別な事は何もしていません。良く食べて良く寝る・・・そしてうがい、手洗いです。特に睡眠は大事です。声は4時間経たないと起きないとされているので早寝早起きは大切ですね。」

③あきらめなければ夢は叶いますか？ 運以外で必要なものは？

「たしかに努力しても叶わないことはあるかもしれませんが。でも努力しなければ夢は叶わないと思います。ここでみなさんのアンケートの中にあっただ好きな言葉、支えにしている言葉を紹介しましょう

- ・他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。
- ・あきらめたらそこで試合終了
- ・努力できる心が天から与えられた1番の才能
- ・生きていれば何とかなる・・・
- ・一人はみんなのために、みんなは一人のために・・・

みな素敵な言葉ですね。言葉の力は本当に大きく、人を一瞬で立ち直らせることができます。自分の心の中に支えになる言葉があることはすばらしいです。私の事務所の先輩が「苦しい時に頑張れる自分」という言葉を教えてくれました。「苦しい時、つらい時こそ、頑張れるっていいな・・・」これを心の支えにしています。さらに本や音楽、映画のなかにも自分を支える言葉が沢山あります。私の大好きな映画の一つに「ショーシャンクの空に」という作品があります。これは冤罪によって投獄された銀行員が腐敗した刑務所で希望を持ち続けて生き抜く姿を描いた映画なのですが、映画のワンシーンに「他人には絶対に奪えないものがある。それは心の中の希望だ」という言葉があります。希望は誰にも奪えない大切な宝物ですね。

最後に仕事の話をしてします。灰谷健次郎さんの小説で心に残っている言葉を紹介します。これを足し算のように当てはめると、次の式は $4 + 5 = 10$

(し、ご、と)と読みますが、4たす5は10(と)にはなりませんよね。本来なら $4 + 5 = 9$ (し、ご、く)になってしまいます。

しごく・・・なんだか辛いイメージですよ。では $4 + 5$ を10にするためにプラスする大事な1は何だと思いませんか？それは「遊び」です。遊び心はモノを楽しむ心。どんな仕事でも、ほんの少しの遊び心、楽しむ心があると素敵ですね。自分がやりたい仕事に就けるかどうかは、運もありますが、熱意や努力、ユーモア、そして人との縁が大事だと思います。

これから生きて行く中でみなさんは間違いなく今が一番若いです。これは何歳になっても同じです。喜びの絶頂でも悲しみの種はありますし、悲しみの中でも喜びの芽は芽吹いています。いつも笑顔で、今生きているということに感謝していれば人生は素敵なものになると思います。」

西村さんは生徒一人一人に話すように優しく話してくださいました。アニメで良く知っているキャラクターでは親しみと同時に西村さんの高い技術を感じました。最後の谷川俊太郎の「生きる」という詩の朗読では息を飲みました。西村さんのこれからの益々のご活躍をお祈りいたします。

